

RL78ファミリ および 78K0R用Cコンパイラ CA78K0R、 78K0R用Cコンパイラ CC78K0R ご使用上のお願い

RL78ファミリ および 78K0R用Cコンパイラ CA78K0R、78K0R用Cコンパイラ CC78K0Rの使用上の注意事項を連絡します。

1. volatile修飾された識別子の二項演算の注意事項
2. 配列要素の前置インクリメント、前置デクリメント、後置デクリメントの 注意事項
3. near属性の配列の要素、near属性の構造体 または 共用体メンバへの farキャストでの連続アクセスの 注意事項
4. strcmp関数、strncmp関数の戻り値が不正となる注意事項
5. strtoul関数の戻り値が不正となる注意事項

1. volatile修飾された識別子の二項演算の注意事項

1.1 該当製品 および バージョン

CA78K0R V1.70 ~ V1.71 (統合開発環境 CS+)

CA78K0R V1.20 ~ V1.70 (統合開発環境 CubeSuite+)

CA78K0R V1.00 ~ V1.10 (統合開発環境 CubeSuite)

CC78K0R V1.00 ~ V2.13 (統合開発環境 PM+)

1.2 内容

volatile修飾された識別子の二項演算結果を別の識別子に代入すると、エラー
または 誤ったコードとなる場合があります。

1.3 発生条件

以下のすべての条件を満たす時に発生する場合があります。

(1) 代入式が以下の形のいずれかである。

a = b 二項演算子 c;

a *= b 二項演算子 c;

a += b 二項演算子 c;

a -= b 二項演算子 c;

a &= b 二項演算子 c;

a ^= b 二項演算子 c;

a |= b 二項演算子 c;

(2) (1)の二項演算子が *、+、-、<<、&、^、| のいずれかである。

(3) (1)の代入演算子の左オペランドaがchar、signed char、unsigned char型の識別子である。

(4) (1)のオペランドb および cが、(1)の左オペランドaと異なる型(注)のvolatile修飾された識別子である。

注: short、unsigned short、int、unsigned int型

発生例:

```
-----  
volatile unsigned short vus1, vus2; /* 発生条件(4) */  
                                /* volatile修飾された識別子 */  
unsigned char uc1; /*発生条件(3) unsigned char型の識別子 */  
void func(void)  
{  
    uc1 = (vus2 - vus1);          /*発生条件(1)(2) */  
                                /*二項演算子 "-"を使用した代入 */  
}
```

上記発生例の場合の出力コード例:

```
-----  
; line 5 :   uc1 = (vus2 - vus1);  
movw    ax, !_vus2 ; vus2の下位1バイトをxレジスタにロード  
movw    ax, !_vus1 ; vus1の下位1バイトをxレジスタにロードして  
                ; xレジスタの値を上書きしている  
mov     a,x  
sub     a,x  
mov     !_uc1,a  
-----
```

1.4 回避策

以下のいずれかの方法で回避してください。

(1) 発生条件(1)のオペランドb および cのvolatile修飾を外す。

回避例1:

```
-----  
unsigned short vus1, vus2; /* volatile修飾を外す */  
unsigned char uc1;  
void func(void)  
{  
    uc1 = (vus2 - vus1);
```

}

(2) "b 二項演算子 c"をaの型でキャストする。

回避例2:

volatile unsigned short vus1, vus2;
unsigned char uc1;
void func(void)
{
 uc1 = (unsigned char)(vus2 - vus1); /* uc1の型でキャスト */
}

2. 配列要素の前置インクリメント、前置デクリメント、後置デクリメントの注意事項

2.1 該当製品 および バージョン

CA78K0R V1.70 ~ V1.71 (統合開発環境 CS+)

CA78K0R V1.20 ~ V1.70 (統合開発環境 CubeSuite+)

CA78K0R V1.00 ~ V1.10 (統合開発環境 CubeSuite) (注)

CC78K0R V2.00 ~ V2.13 (統合開発環境 PM+) (注)

注: 後置デクリメント使用時の注意事項は、CA78K0R V1.00 ~ V1.01
および CC78K0R V1.00 ~ V2.12は対象外です。

2.2 内容

配列要素で前置インクリメント、前置デクリメント、後置デクリメントを使用すると誤ったコードになる場合があります。

2.3 発生条件

以下の発生条件1 または 発生条件2のいずれかに該当した場合に発生する場合があります。

発生条件1:

以下のすべての条件を満たす時に発生する場合があります。

(1) 関数内で、自動変数、仮引数を使っていない。

(2) 1つの式の中に間接参照が2つ以上ある。

以降、2つの間接参照を "間接参照A" および "間接参照B" と表記する。

(3) 間接参照Aは、添え字が定数でない配列要素(例: ary[idx]) またはポインタを使用した間接参照式(例: *ptr)である。

(4) 間接参照Bは配列要素であり、要素サイズが1バイトのfar配列で添え字が定数でない。

(5) 間接参照Bの配列要素を前置インクリメント または 前置デクリメントしている。

発生条件2:

以下のすべての条件を満たす時に発生する場合があります。

- (1) 配列要素を参照している。
- (2) 配列の要素サイズが1バイト または 2バイトである。
- (3) 配列の添え字がunsigned short、 unsigned int型である。
- (4) 配列の添え字の値を0の状態から後置デクリメントしている。

発生条件1の発生例:

```
-----  
unsigned char __far fuca1[2];  
unsigned char ucaa1[2][2];  
unsigned char x1;  
unsigned short us1, us2;  
void func(void)  
{  
    /* 発生条件(1)自動変数、仮引数を使っていない */  
    /* 発生条件(2)間接参照A: ucaa1[us1]、間接参照B: fuca1[us2] */  
    /* 発生条件(3)添え字が定数でない配列要素: ucaa1[us1] */  
    /* 発生条件(4)要素サイズ1のfar配列で添え字が定数でない */  
    /*      配列要素: fuca1[2] */  
    /* 発生条件(5)前置インクリメント: ++fuca1[us2] */  
    x1 = ucaa1[us1][++fuca1[us2]];  
}
```

上記発生例の場合の出力コード例:

```
-----  
; line 13 : x1 = ucaa1[us1][++fuca1[us2]];  
movw ax,!_us1  
addw ax,ax  
addw ax,#loww (_ucaa1)  
movw de,ax  
movw ax,!_us2  
addw ax,#loww (_fuca1)  
movw hl,ax  
mov ES,#highw (_fuca1)  
inc ES:[hl+0]  
mov ES,_@SEGL ; 未設定の_@SEGLを参照している  
mov a,ES:[hl]  
shrw ax,8  
addw ax,de  
movw de,ax  
mov a,[de]  
mov !_x1,a  
-----
```

発生条件2の発生例:

```
-----  
unsigned char uca1[10], uc1;  
unsigned short us1;  
void func(void)  
{  
    /* 発生条件(1)配列要素を参照: uc1 = uca1[us1--] */  
    /* 発生条件(2)配列の要素サイズが1バイト: uca1[10] */  
    /* 発生条件(3)配列の添え字がunsigned short型: us1 */  
    /* 発生条件(4)配列の添え字の値を0の状態から */  
    /*      後置デクリメント: us1-- */  
    uc1 = uca1[us1--];  
}
```

上記発生例の場合の出力コード例:

```
-----  
; line 10 :   uc1 = uca1[us1--];  
decw  !_us1      ; us1が0の場合  
movw  bc,!_us1   ; bcレジスタの値は0xffff  
mov   a,_uca1+1[bc] ; uca1[1+0xffff]を代入  
mov   !_uc1,a
```

2.4 回避策

該当する発生条件で回避策が異なります。

発生条件1の場合:

以下のいずれかの方法で回避してください。

- (1) far配列をnear配列に変える。
- (2) テンポラリ変数を設け、前置インクリメント または 前置デクリメントの演算結果をテンポラリ変数に代入しながら演算する。

発生条件1の回避例:

```
-----  
unsigned char __far fuca1[2];  
unsigned char ucaa1[2][2];  
unsigned char x1;  
unsigned short us1, us2;  
void func(void)  
{  
    unsigned char temp; /* テンポラリ変数 */  
    temp = ++fuca1[us2]; /* 前置インクリメント結果を代入 */  
    x1 = ucaa1[us1][temp];
```

}

発生条件2の場合:

配列の参照と添え字のデクリメントの実行を分ける。

発生条件2の回避例:

```
-----  
unsigned char uca1[10], uc1;  
unsigned short us1;  
void func(void)  
{  
    uc1 = uca1[us1];    /* 配列要素の参照 */  
    us1--;             /* デクリメント */  
}
```

3. near属性の配列の要素、near属性の構造体 または 共用体メンバへの farキャストでの連続アクセスの注意事項

3.1 該当製品 および バージョン

CA78K0R V1.70 ~ V1.71 (統合開発環境 CS+)

CA78K0R V1.20 ~ V1.70 (統合開発環境 CubeSuite+)

CA78K0R V1.00 ~ V1.10 (統合開発環境 CubeSuite)

CC78K0R V2.00 ~ V2.13 (統合開発環境 PM+)

3.2 内容

near属性の配列の要素、near属性の構造体 または 共用体メンバに対し、farで
キャストして連続アクセスすると誤ったコードとなる場合があります。

3.3 発生条件

以下のすべての条件を満たす時に発生する場合があります。

- (1) 関数内で、自動変数 または 仮引数を使っている。
- (2) 静的にnear配置した配列の要素、near配置した構造体 または 共用体メンバ
にアクセスしている。
- (3) (2)のアクセスの後に、アセンブラコード上で「(2)のアドレス+1」にある
配列要素構造体 または 共用体メンバに対し、アドレスを「1byteデータ
へのfarポインタ」にキャストして間接参照でロードしている(ただし
(2)のアクセスの後に関数呼び出しやasm文がある場合は除く)。
- (4) (3)のアクセスの後に、「(3)のアドレス+オフセット」にある配列要素
構造体 または 共用体メンバをアクセスしている(ただし(3)のアクセスの
後に関数呼び出しやasm文がある場合は除く)。
オフセットはアセンブラコード上で-2から+255の間である。
- (5) (2)(3)(4)の配列要素、構造体 または 共用体メンバが、同じ識別子で
ある。

発生例

```
-----  
unsigned char __near const uca1[7] = { 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 };  
unsigned char __near uc1, uc2, uc3;
```

```
#define data0 (*(unsigned char __far *)&uca1[0])  
#define data1 (*(unsigned char __far *)&uca1[1])  
#define data2 (*(unsigned char __far *)&uca1[2])  
#define data3 (*(unsigned char __far *)&uca1[3])  
#define data4 (*(unsigned char __far *)&uca1[4])  
#define data5 (*(unsigned char __far *)&uca1[5])  
#define data6 (*(unsigned char __far *)&uca1[6])
```

```
void func(void)  
{  
    unsigned char dummy; /* 発生条件(1) */  
    uc1 = data2; /* 発生条件(2)(5) */  
        /* uca1[2]をfarアドレスの間接参照でアクセス */  
    uc2 = data3; /* 発生条件(3)(5) */  
        /* uca1[2+1]をfarアドレスの間接参照でアクセス */  
    uc3 = data4; /* 発生条件(4)(5) */  
        /* uca1[3+1]をfarアドレスの間接参照でアクセス */  
}
```

上記発生例の場合の出力コード例:

```
-----  
; line 14 :   uc1 = data2;  
movw    de,#mirlw (_uca1+2)  
mov     a,[de]  
mov     !_uc1,a  
; line 15 :   uc2 = data3;  
mov     a,[de+1]  
mov     !_uc2,a  
; line 16 :   uc3 = data4;  
mov     a,[de+1] ; uca1[4]ではなくuca1[3]をアクセス  
mov     !_uc3,a  
-----
```

3.4 回避策

以下のいずれかの方法で回避してください。

(1) 発生条件(3)のアクセスをnearポインタへのキャストに変更する。

回避例1:

```
-----  
#define data3 (*(unsigned char __near *)&uca1[3])  
-----
```

(2) 発生条件(3)のアクセスをキャストなしに変更する。

回避例2:

```
-----  
#define data3 (uca1[3])  
-----
```

4. strcmp関数、strncmp関数の戻り値が不正となる注意事項

4.1 該当製品 および バージョン

CA78K0R V1.70 ~ V1.71 (統合開発環境 CS+)

CA78K0R V1.20 ~ V1.70 (統合開発環境 CubeSuite+)

CA78K0R V1.00 ~ V1.10 (統合開発環境 CubeSuite)

CC78K0R V1.00 ~ V2.13 (統合開発環境 PM+)

4.2 内容

strcmp関数、strncmp関数を使用して引数を比較する際に、戻り値が不正となる場合があります。

4.3 発生条件

以下のすべての条件を満たす時に発生します。

(1) 以下のいずれかの関数を使用して引数の比較を行っている。

- strcmp(s1, s2)

- strncmp(s1, s2, n)

(2) s1で指される文字列とs2で指される文字列の1バイトずつの順次比較で、最初の異なる文字対が、下記のいずれかを満たす。

(a) s1で指される文字列の文字コードが0x80以上で、かつ、s2で指される文字列の文字コードとの差が0x80以上である。

(b) s2で指される文字列の文字コードが0x80以上で、かつ、s1で指される文字列の文字コードとの差が0x80より大きい。

発生例

```
-----  
#include  
int x1, x2, x3;  
void func(void)  
{  
    x1 = strcmp("%xc0", "%x3e"); /* 発生条件(1)(2) */  
        /* x1の値が負となる */  
    x2 = strcmp("%xc0", "%x40"); /* 発生条件(1)(2) */  
}
```



```
        /* x2の値が負となる */
x3 = strcmp("%x40", "%xc2"); /* 発生条件(1)(3) */
        /* x3の値が正となる */
    }
-----
```

4.4 回避策

ありません。

5. strtoul関数の戻り値が不正となる注意事項

5.1 該当製品 および バージョン

CA78K0R V1.70 ~ V1.71 (統合開発環境 CS+)

CA78K0R V1.20 ~ V1.70 (統合開発環境 CubeSuite+)

CA78K0R V1.00 ~ V1.10 (統合開発環境 CubeSuite)

CC78K0R V1.00 ~ V2.13 (統合開発環境 PM+)

5.2 内容

strtoul関数を使用して文字列を整数に変換する際に、戻り値 および errnoが不正となる場合があります。

5.3 発生条件

以下のすべての条件を満たす時に発生します。

(1) 以下の関数を使用して文字列を整数に変換している。

- strtoul(nptr, endptr, base)

(2) 変換対象文字列nptrがマイナス符号付きの文字列である。

発生例

```
-----
#include
char *endptr;
unsigned long ans1, ans2;
void func(void)
{
    /* 発生条件(1)(2)ans1の値が4294966062ではなく0となる */
    ans1 = strtoul("-1234", &endptr, 10);
    /* 発生条件(1)(2)ans2の値がULONG_MAXではなく0となり、 */
    /* errnoの値がERANGEではなく0となる*/
    ans2 = strtoul("-4294967300", &endptr, 10);
}
-----
```

5.4 回避策

ありません。

6. 恒久対策

上記5件の注意事項は、次期バージョンで改修する予定です。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.